

舞鶴引揚記念館 令和3年度第2回企画展
『こどもたちのお出迎え』開催について

舞鶴引揚記念館の第2回企画展「こどもたちのお出迎え」について、展示の詳細が決まりましたのでお知らせいたします。

1. 展示期間

令和3年7月31日(土)～令和3年9月26日(日)

※展示期間中の休館日：9月16日(木)

2. 場所

舞鶴引揚記念館 企画絵画展示室 (企画展は無料。別途入館料が必要です)

3. 展示概要

戦後の混乱の中、海外から引き揚げてきた人々を舞鶴の小・中学校のこどもたちは「おかえりなさい」「ごくろうさまでした」と手や旗を振ってお出迎えをしました。また、引揚援護局へ出向いて歌やお遊戯などの慰問も行いました。こどもたちの愛らしく一生懸命な姿は故郷へ思いをさせ、新たな一歩を踏み出そうとしている引揚者の心を和ませました。本企画展では、引揚援護局内の様子やこどもたちの慰問、引揚直後の人々などを当時の絵画や手記、写真などの資料でご紹介します。

4. 展示資料

総点数 39点

- | | |
|-------------------------|----|
| ・こどもの慰問等の写真パネル | 8点 |
| ・感謝状 | 1点 |
| ・慰問の思い出をつづった手記 | 8点 |
| ・当時の公文書やメモ | 3点 |
| ・引揚者を迎える歌(若浦中学校の合唱風景ほか) | 2点 |
| ・援護局を描いた絵画 | 9点 |
| ・援護局の写真パネル | 8点 |

【お問い合わせ先】

舞鶴引揚記念館：☎0773-68-0836、FAX0773-68-0370

E-Mail：hikiage@city.maizuru.lg.jp



5. 主な展示資料

① こどもの慰問等の写真パネル



舞鶴市内の小中学校の児童・生徒による慰問の様子の写真

児童たちは、学校が終わってからトラックやバスに乗せられて引揚援護局にて歌や踊り、お遊戯を披露した。

② 感謝状（文部大臣から）



昭和29年（1954）大浦中学校に対して、当時の文部大臣 大達茂雄から引揚邦人に対しておこなった引揚者のお迎えや歌、踊りの慰問といった数々の努力に対して贈られた感謝状。市内の他の学校では感謝状が贈られた記録は残るが、現存はしていない。

③ 当時の公文書やメモ



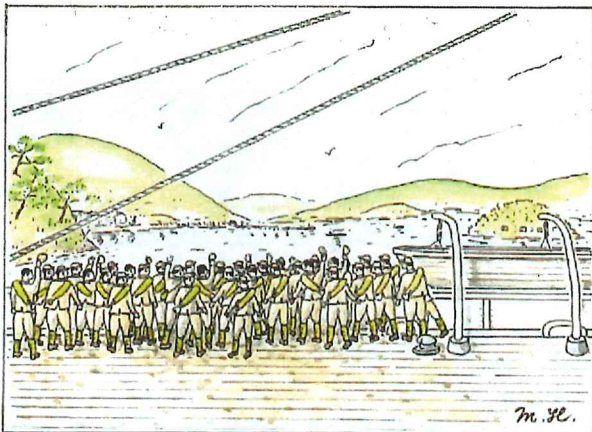
昭和28年（1953）に中国地方からの引揚者が入港するのに伴い、市を挙げて引揚者の歓迎会の催しが計画された。この時の引揚者の中には多くの就学年齢の子供がいたため、市内の小中学校から歓迎の慰問が計画され、児童や教諭も参加した。

④ 引揚者を迎える歌（若浦中学校） DVD など

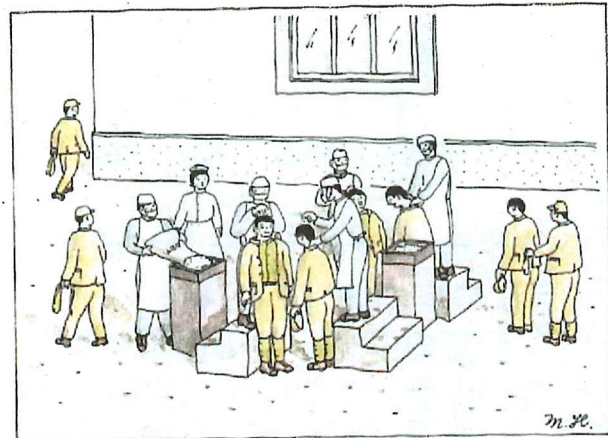
若浦中学校の前身である大浦中学校では、引揚船が入港する度にお迎えに繰り出し、引揚者を迎える歌を歌って歓迎した。現在の若浦中学校では、その歌を復元して令和元年から平和祈念式典などで披露している。



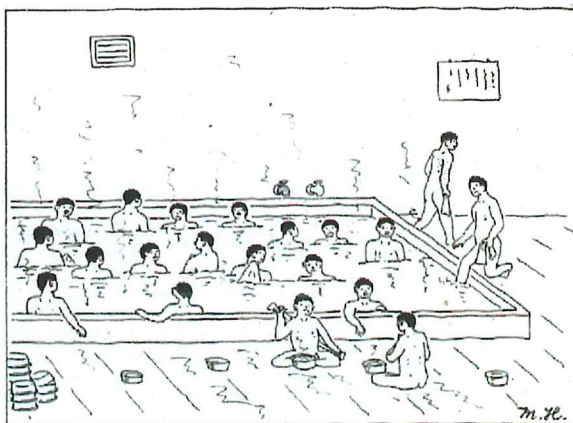
⑤ 援護局を描いた絵画



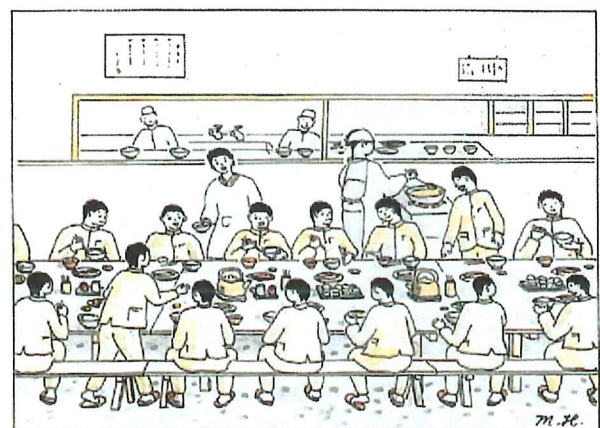
舞鶴港
羽根田光雄 氏



DDT 消毒
羽根田光雄 氏



大浴場
羽根田光雄 氏



舞鶴での食事
羽根田光雄 氏

【お問い合わせ先】

舞鶴引揚記念館：☎0773-68-0836、FAX0773-68-0370
E-Mail: hikiage@city.maizuru.lg.jp



羽根田光雄 氏プロフィール

明治 43 年 (1910)	宮城県に生まれる
昭和 10 年 (1935)	東京石川島造船所 (現石川島播磨重工) 入社
昭和 20 年 (1945)	満州石川島重工出向する。8月に現地招集後、ソ連に抑留
昭和 22 年 (1947)	舞鶴に帰国、石川島重工に復帰
平成 10 年 (1998)	逝去
平成 27 年 (2015)	引揚記念館に寄贈した絵画 50 点がユネスコ世界記憶遺産に登録

6. 子供のころに慰問に訪れた方の思い出。

【吉田かず子】さん (80歳)

「舞鶴・引揚語りの会、会員として引揚記念館内にて行う語り部活動で史実の継承に努めている。

志楽小学校の3年生、6年生の時に2回慰問へ行った。

3年生の時(昭和25年)春

児童の中から6名が選抜され、引率の先生と夕方に引揚援護局へホロ付きのトラックで行き、援護局の中にある講堂で踊りました。

講堂の中は兵隊さんでいっぱいでした。兵隊さんの代表者に花束を渡すと大歓声に包まれたのが忘れられません。

慰問を受けた兵隊さんが、故郷に帰ってから私たちが踊っている絵を画いて小学校に送ってくれました。その絵は講堂にしばらく貼ってあった思い出があります。

6年生の時(昭和28年)

バスがお迎えに来て集まって行きました。引揚援護局には他の小中学校からも児童たちが来ていました。私たちは唱歌を歌いました。出番が終わった児童たちが、次々と新聞や雑誌の取材陣からインタビューされるなど取材合戦が激しかったことを思い出します。

昭和25年までと昭和28年以降では引揚者も慰問する人達も心身共に雲泥の差があったように思います。昭和28年といえは戦後の復興も一段落し、引揚者も着の身着のまま帰ってきた昭和20年代前半とは大きな差がありました。

【お問い合わせ先】

舞鶴引揚記念館：☎0773-68-0836、FAX0773-68-0370

E-Mail : hikiage@city.maizuru.lg.jp

